

多様な四国の国有林を生かして

四国森林・林業研究発表会

令和二年度 四国森林・林業研究発表会を、令和三年一月下旬に、局会議室において開催予定です。

今回で六七回目となります。発表課題につきましては、各署等から提出されつつあります。

研究・技術開発の
ための戦略

林野庁は、森林・林業・木材産業分野の課題解決に向けて、研究・技術開発における対応方向及び研究・技術開発を推進するため、「森林・林業・木材産業分野の研究・技術開発戦略」を策定しています。

四国の国有林野は約一八万haで、暖温帯林から亜寒帯林までわたり、多様な森林で構成されています。

これらのことから、各署等での特徴ある研究課題の発表に期待します。開催までには、一定の時間がありますので、課題のスタート(情報収集等)・中休み(署等内で情報共有)・ゴール(発表・技術の普及)を目指してください。



誌上 森林環境教育

ヤスリとして使える葉は、
どんな樹木ですか。

ヤスリとして使える葉について、身近な雑木林で見かけるムクノキの葉(写真)は、触るととてもザラザラしています。



葉の裏表に珪酸(けいさん)という物質の固い結晶があります。

倍率の高い虫眼鏡や実体顕微鏡で観察できます。

この葉を乾燥させたものが、紙ヤスリ(サンドペーパー)の替わりに使えます。

ムクノキのほかに、シダの仲間のトクサもヤスリに使えます。

(子ども樹木博士ニュース 75号)

編集後記

新型コロナウイルスの緊急事態宣言が解除されました。しかし、いままで取り組んできた対策(マスク着用・手洗い等)は継続しましょう。

引き続き健康に留意し毎日を過ごしましょう。

知っ得 豆知識

縁の下や木の根元など、雨が直接当たらない乾いた場所で、よくアリジゴクを見かける(写真上)。

巣の底では、大あごの先のほうだけを出し、虫が落ち込むのを待つ。虫が巣の中に落ち込むと大あごで素早く捕らえ、砂の中に引きずり込む。もし、巣に落ちた虫がはい出ようとするものなら、砂をパッとかけてずり落とし捕らえる。アリジゴクは捕らえた獲物の体液を一滴残らず吸ってしまうと、カラカラになった死体を強いあごを使って穴の外へポイッと捨てる。

ところで、アリジゴクの主は「誰」なのか。ふつうアリジゴクは2、3年かかって成長し、夏のはじめころ土の中に直径1cmくらいの丸いマユを作りその中でサナギに。そして2週間くらいでトンボのような薄い羽を持ったウスバカゲロウが誕生(写真下)。つまり、アリジゴクの主は、ウスバカゲロウの幼虫だった。



「アリジゴクの主」 って

(街の自然観察 矢野亮より)